

第56回特別展

中国敦煌研究院創立50周年記念

砂漠の美術館—永遠なる敦煌

敦煌は中国・甘粛省の西端にあり、中国と西域を結ぶシルク・ロードの重要な中継基地として栄えた。東西の文化が交流する中で、敦煌では4世紀頃から石窟寺院が作られはじめ、その造営は元時代まで、およそ1000年もの間続いた。

それらは、莫高窟、榆林窟、西千仏洞などのグループにわかれており、仏教美術の一大宝庫として、ユネスコの世界文化遺産にも登録されている。

今回の展覧会は、その研究と保存のためにつくられた中国敦煌研究院の創立50周年を記念して開催した。砂漠の中の真珠とも呼ばれる敦煌芸術を総合的に紹介しようという試みで、過去数回にわたって開催された敦煌展を規模・内容ともにしのぐ、最大級の敦煌展となった。

会期／平成9年2月22日（土）～4月20日（日）

会場／特別展示室1、南蛮美術館室、ギャラリー、ホール

主催／神戸市立博物館、中国敦煌研究院、朝日新聞社、朝日放送

後援／外務省、中国大使館

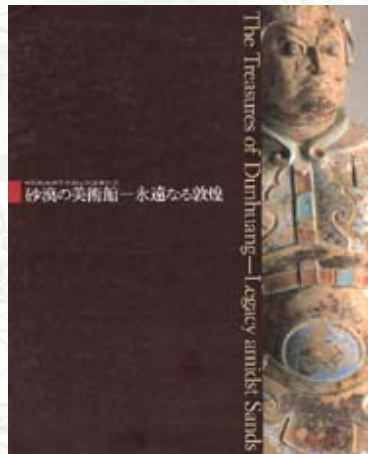
特別協賛／アサヒビール、鴻池組

協力／朝日生命、日本航空

開催日数／50日

入館者数／60, 796人（1, 216人／日）

出品件数／81点



※この図録は現在当館では扱っておりません。